

諸国名家短冊集（羽鳥一紅ほか）（近世カ）

（前略）

洛東岡崎住

京都俳宗 五升菴（庵）

菴のはな 嵯峨や醍醐は道遠し 蝶夢

京都東山 芭蕉堂半化坊

素輪ぬしを訪らひ
侍るに由の神の
とわのにやありけん
あくた（芥）たひ（大）変に
あへるなりとぬりこめ
そて（袖）かさ（飾）りける者（カ）
こほらぬもあはれや
川の融（カ）のこれ 関更

京都俳家 号夜半翁

みしか夜や 薄生添ふ垣のひま 蕪村



諸国名家短冊集（羽鳥一紅ほか）

（近世カ）

松井家に伝来した上州内外の俳人の短冊集です。松井家出身の松井素輪^{そりん}（1732～1792年）は、三日月素輪として名が知られた近世中期の上州を代表する俳人で、多くの門弟を擁していました。

短冊中の夜半翁^{やはんおうぶそん}蕪村^{うぶそん}は与謝蕪村^{よしかぶそん}、羽鳥氏後室^{はとりいこう}は、同時期に活躍した高崎町の女性俳人・羽鳥一紅^{うぶかたうじゅう}です。生方雨^{なまかたあめ}什^{じゅう}（惣兵衛）もまた、高崎町出身の俳人・狂歌師です。

そのほか、加賀千代女^{かがのちよじょ}・建部綾足^{たけべあやたり}など著名な俳人の短冊が貼られており、本史料から素輪の交友関係がうかがえます。

松井家旧蔵文書 P01013 No.416



(中略)

高崎 羽鳥氏後室

うゑてまでハけに

なか月やけふの菊 一紅

同 處 生方惣兵衛

緒絶の橋の としふれと 雨仕

一景を 絶ぬをたへや橋の霜

乞れて

月今宵 大事に雲をはなれけり 素輪